

## 瑞浪巡検に参加して：冬季巡検会報告

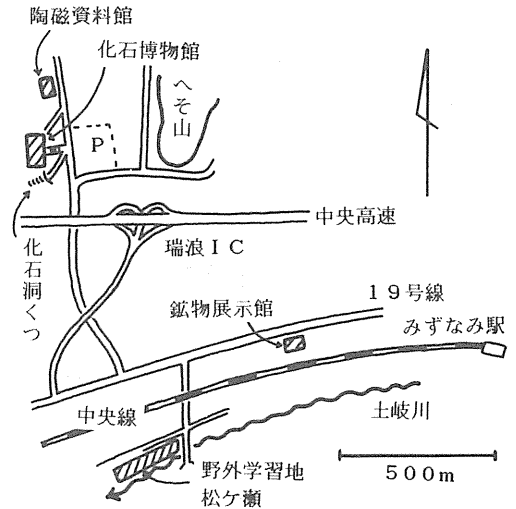
著者	浜田 俊
雑誌名	静岡地学
巻	57
ページ	25-26
発行年	1988-06-19
出版者	静岡県地学会
URL	<a href="http://doi.org/10.14945/00025458">http://doi.org/10.14945/00025458</a>

# 瑞浪巡検に参加して

## —冬季巡検会報告—

浜田 俊\*

静岡県地学会恒例の冬季巡検が、暮れもおしせまった12月25日に行われた。マイカー方式で岐阜県瑞浪市を訪れた。東名高速道路新城パーキングエリアに午前10時に集合し、簡単な顔合わせをしたのち、一路西進中央高速道路瑞浪インターへと向かった。昼食後最初の見学地である、国道19号線沿いにある瑞浪鉱物展示館に足を運んだ。この展示館の外観は普通の倉庫の二階といった感じである。しかし、伊藤陽輔氏が1955年頃から国内外より収集した約一万点もの中から選び出したという1,500点の鉱物標本はなかなかのものであった。目をみはるような、メキシコ産の巨大石英のほか、長石、輝石、宝石類、ウラン鉱物等の有用鉱物が所せましと展示されていたが、説明がやや少ないのは残念であった。



瑞浪化石博物館付近略図

次に訪れたのが、1974年に開館されたという瑞浪市化石博物館である。中央高速道路建設工事現場

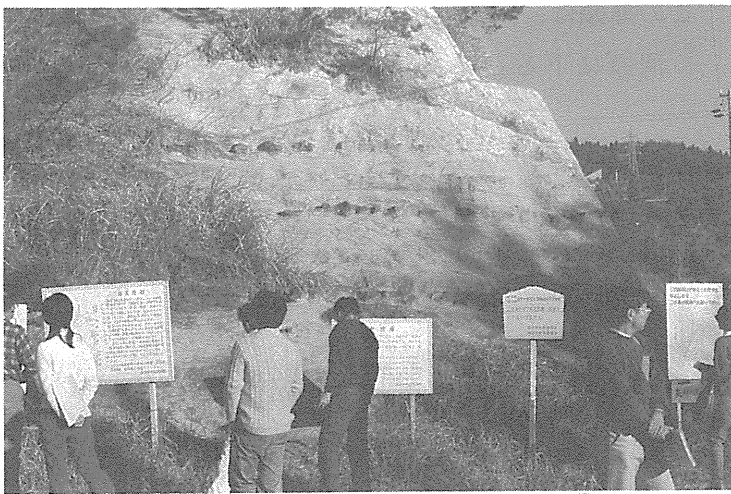





写真1 博物館向かいの「へそ山」露頭で説明板などをみる参加者。水平に点線のようにみえるのは化石が密集したノジュールで斜面からとび出している。戸狩層(砂岩層)

から発見された豊富な化石とそれを含む地層を材料として、この地方の自然の生い立ちを描き出した展示がメインテーマとなっている。日本の代表的化石といってもよいデスマスチルスの歯や2頭の復元骨格標本が印象的である。お宮の御神体にもなっているという“おさがり”のピカリアをはじめ、数多くの貝類の化石、天狗の爪として古くから知られているサメの歯、コハクの中に保存された珍しい昆虫の化石、植物化石、その他の岐阜県内の各種の化石というようにそれぞれのコーナーごとに展示してあり、独特の工夫がこらしてある。化石にさわったり、実際に顕微鏡をの

\* (私立) 桐陽高等学校

瑞浪地域の地質層序と主な化石

時代	地層名	主な化石
第 四 紀	沖積層	
	段丘堆積層 金戸層 60 m	 コハクの中にアリ、ハエ、クモなど多数
鮮 新 世	瀬戸層群 土岐砂礫層 150 m 土岐口陶土層	 オオミツバマツ メタセコイア等 植物化石多数
	新 中 新 瑞 浪 世 層 群 (前期~中期)	生俵層 160 m III
名滝層 20m ±		 サメ、サンゴ、サザエ
宿洞層 10m ±		サメ、タマキガイ、クルミガイ、ウニ、ミオギブシナ
狭間層 100 m		デスモステルス ゲンロクソデガイ、 貝化石多数など
山野内層 35 m II		ニポノマルシア、 ハマグリ他 貝化石多数
戸狩層 30 m		ビカリア カタツムリ
月吉層 30 m		
紀	本郷累層 70 m	植物化石
	土岐炭累層 I 140 m	ゾウ、サイ、ウマ 植物化石・貝化石 (亜炭やウランを含む)
中生代	土岐花崗岩類 濃飛流紋岩類 秩父中生層	(基盤)

瑞浪市化石博物館パンフレットにより作成 (半田)

我々も採集に汗を流したが、あまり多くの成果をあげることはできなかった。それでもノジュールのなかに木葉化石を見つけることができた。解散直後によい場所を探しあてたグループは保存のよい貝化石（キララガイ、ユキノアシタ、ホタテ、ゲンロクソデガイなど）を採集していた。

年末にしては異常なあたたかさであったが、冬の一日は終わりが早く、一行14名が化石採集に夢中になっているうちに時計は4時をまわって、もうあたりは薄暗くなりはじめていた。

ぞける「教育の広場」のコーナーもある。この日は見学者が少なく、貸切りの状態でゆっくりとみることができた。

博物館のわきには第二次大戦時に掘られた洞くつ（懐古洞）が保存されており、薄暗い照明の中、天井や壁にはハマグリ、カガミガイなどの貝化石を見ることができるが、大型化石の数はあまり多くないように思った。

一行は化石博物館隣接の陶磁資料館も見学した。焼物の町（美濃焼きなど）らしく、古代から現代に至るまでの陶磁器などの展示は訪れる者の目を楽しませてくれる。屋外には陶磁器の原料を造っていた大きな水車や、窯などの保存展示もあった。

また、博物館の向かい側の丘（へそ山）では新第三紀中新世瑞浪層群の戸狩層、山野内層が露出しており、多くの化石を見ることができる。ここは天然記念物に指定されており、いくつかの説明板がある。ここの砂岩、シルト岩層の中には白い2枚の薄いタフが認められ、アベックタフと呼ばれてよい鍵層となっている。このあと、参加者は、博物館で採集許可を受け、近くの土岐川の松ヶ瀬露頭に移った。この露頭は、山野内層だという。

河原に下るとあちこちにハンマーの跡があり、

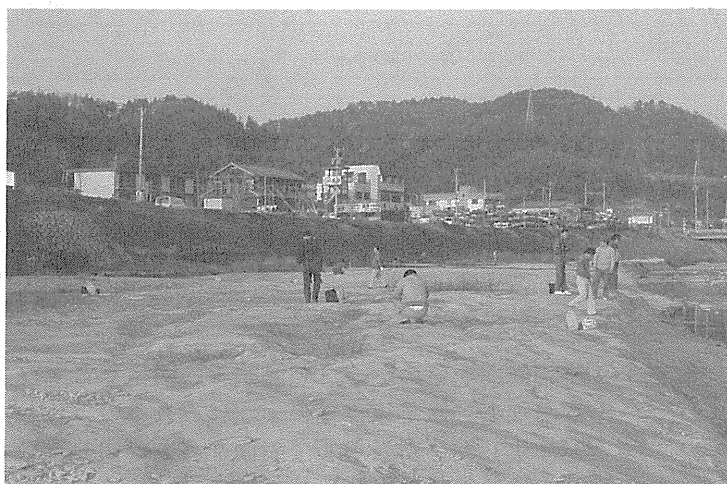


写真2 土岐川、松ヶ瀬露頭で化石をさがす参加者